

階級のない社会について考える

ハーヴィー・ジャキンズ

1992年10月26、27日、ロンドンで「階級のない社会をつくる」というテーマのワークショップが開かれました。Micheline Mason が呼びかけ人兼立案者で、Dorann van Heeswyjk がそれを補佐しました。私は全体のリーダーと労働者階級グループのリーダーを頼まれました。Seán Ruth が中産階級グループのリーダーを、Jo Saunders が所有者階級グループのリーダーを引き受けました。Anna Hutton が私の労働者階級グループでのリーダーシップを補佐してくれました。さらにワークショップの終わりに、Sue Edwards と Gillian Turner が質疑応答の時間を設けてくれました（オーガナイザーは Louise Fox でした）。

参加者はある時点で262名を数え、総数では300名を越えていたと思います。それぞれの階級に属するRCer 同士の関係性に強い関心もたれ、熱心な議論がされました。とりわけ、性差別や人種差別などの関連する抑圧と、基本となる経済的抑圧とのあいだの関係の究明に大きな関心が寄せられました。たいへん啓発的な議論がなされました。これによって、確実にこれからイギリスに数多くの新しい考え方が生まれてくるでしょう。以下はこのワークショップによって私がたどりつきたいいくつかの考えです。

以前行なわれた「抑圧のない社会を構想する」という試みが、私たちにとってたいへん貴重であったことは確かです。現代社会に起きている全世界的な行き詰まりについて知的に取り組むためには、パリコミュンやロシア十月革命や中国革命について学び、理解する必要があります。

パリコミュン（訳注：1871年3月26日にパリで民衆が蜂起して誕生した革命政府）は武力で弾圧されました。パリの労働者を鎮圧するためにフランスの所有者階級がドイツ侵略軍と手を結んだためです。

ロシアと中国が階級社会に逆戻りした誘因は、両国のそれ以前の社会から存在していたパターンが再現したことだと思います。強欲、搾取、抑圧という所有者階級のパターンが保持され、ついにはソビエトと中国の大半の「共産主義指導者」の政策を乗っ取り、支配してしまっただけです。

ロンドンのワークショップでは、階級も抑圧もない社会に永続的に移行するためにはRCの理論や方法が不可欠となるだろう、という意見が多勢を占めていました。

この問題を考えるにあたって、私は結論というより推測のかたちでいくつかのキーとなる考えを書き出してみました。こうした推測の意義について、皆さんの考えと意見を募集します。

1. 人間の本質は、互いに協力し合い、支え合うことです。人間は傷のパターンを持つことによるのみ、強欲になったり他人を恐れたり無益な競争をしたりします。
2. 人間が単純な狩猟採集生活を営んでいたあいだは、そうしたパターンは一、二世代で消え去り、その後継がれることはありませんでした。低いテクノロジーで生き延びていた時代には、個人や家族の生存に必要なもの以上のものは生産しませんでした。
3. 環境をコントロールし、個人の必要を満たす以上のものを手に入れられるようになって（通常は農耕や動物の家畜化によって）、初めて余剰が可能になりました。そして、明らかにその余剰が強欲パターンの誘因となりました。このパターンはまるで伝染するように保持され、再生産され、現代においても再生産パターンとして現れています。
4. 最初に登場した階級社会は奴隷社会でした。奴隷化された人間は完全に奴隷所有者のものとなり、奴隷が生産したものは命と引き換えに取り上げられました。価値を生産する構造は、以前にあった単純な関係性よりもより効率的になっていきました。富が生産され、抑圧を持続させる誘因となりました。利益は生まれても、「人間」の価値と呼べるような利益は奴隷所有者の側にも奴隷に側にも生まれませんでした。

奴隷もふつうの人間ですから、抑圧に対して戦いつづけました。すると第二の抑圧（性差別、人種差別、若い人に対する

る抑圧など)が作り上げられました。奴隷を互いに分断し、奴隷所有者に対する反抗をそらして互いに抑圧するように仕向けたのです。

奴隷所有者たちはみな、他の奴隷所有者を奴隷化し、かれらの所有する奴隷たちを自分のものにし、また自らが奴隷化されないように激しく競争し、戦いました。あらゆる都市国家が他の都市国家を征服するために、また自らが征服されないように、戦争に駆りたてられました。奴隷制度の基本的構造のなかにこうした矛盾が組み込まれていました。こうした内的な矛盾によって奴隷制度はおおよそ六千年後に崩壊し、封建制度がそれにとって代わりました。

奴隷社会は繰り返される奴隷の反乱によってぐらつかされました。しかし、奴隷社会が崩壊したのはその内的な矛盾によってでした。もっとも栄えた都市国家(ローマやカルタゴ)はあまりにも巨大化し、自らを支えることができなくなりました。奴隷を抑圧するための軍事コストがかさみ過ぎたのです。軍事指導者は新たな支配者階級となりました。かつての奴隷は農奴となり、以前ほどではないにしろ、やはりひどい抑圧を受けました。

人間の歴史からわかることは、奴隷社会が奴隷の反乱のみによって終焉を迎えたわけではないということです。奴隷社会はその内的な矛盾によって自ら崩壊したのです。

5. 封建社会における主な階級は貴族と農奴でした。貴族は農奴が作りだした価値の大半を自分たちのものとし、農奴は農業にも手工業にも従事しました。封建制度によって生産力は高まり、農奴はかつて奴隷が奴隷制度によって搾取されたときよりもより効率的に搾取されました。どちらも人間の価値を手にすることはありませんでした。相変わらず人々の行動の動機は強欲と恐怖でした。

封建制度もまたいくつかの内的な矛盾を持ちあわせていました。権力を与えられていたのは貴族でしたが、商人やギルドによる農奴の搾取は貴族によるそれよりも遥かに効率的でした。商人やギルドは貴族階級よりも裕福となり、その結果かれらは権力を高め、より大きな野心をもつようになりました。

こうした矛盾によって封建制度は千年もしないうちに崩壊し、所有者階級と労働者階級によるいわゆる資本主義がとって代わりました。かつての農奴たちは貴族に対する資本主義者の台頭を支持しました。その理由は、資本主義者がこの新しい社会によって「自由と平等と友愛」が実現すると宣伝したからであり、また農奴たちはたとえわずかでもより自由な社会を求めていたからです。しかし実際に農奴たちが手にした「権利」は、貴族の代わりに所有者階級の資本主義者に搾取される「権利」でした。

6. 所有者階級と労働者階級によるこの社会は、それまでのどの社会よりも効率的に生産し、富を蓄積していきました。奴隷制度が奴隷を搾取したときよりも、また封建制度が農奴を搾取したときよりもさらに効率的に賃金労働者を搾取しました。労働者階級(労働者階級の一部である中産階級を含む)が生産した価値は、生産手段(工場、鉄道、農場)を所有する所有者階級によってすべて取り上げられ、一部の分け前だけが賃金、給与、あるいは「付加給付」として労働者階級に返却されました。価値の余り分は所有者や地主に分配されたり、銀行や軍事予算にまわされたりしました。

資本主義社会はたいへん大きな内的矛盾を抱えています。いちばんの問題は、所有者階級が確保した利益を中心機構である自由市場に供給させないため、市場で売り出されている生産物に対する購買力が生まれません(たとえば、自動車工場の労働者は、自分たちが生産した車を買えるだけの賃金を受け取りません。労働者は借金がどんどんかさむばかりで、経済を前進させるほどには「消費」できません)。経済システムは繰り返し深刻な経済危機に襲われるようになっていきました。所有者階級と労働者階級によるこの社会は、その内的矛盾によって四百年もしないうちに崩壊しようとしています。

世界的な規模となったこの資本主義社会は、崩壊の最終段階を迎えようとしています。その兆しの一つは、いまや膨大な額となった国債を支払うことも、これ以上増やすことも不可能なことが明らかである点です。失業率の拡大は世界中でますます多くの人々の生活を脅かしています。あと先を見ない無分別な乱開発は生態系のすべてを危機に陥れています。ますます多くの人々が経済活動から「排除」されています。世界的システムである資本主義は、調べるかぎりにおいて、そのすべての機能が「壊れ」つつあります。

これまでの政治運動は労働者階級の人々に呼びかけ、現在の社会を「転覆」させようとしてきました。しかし状況を読み違えていました。これら社会はもともとあった矛盾によって変調をきたし、自ら「転覆」していったのです。社会の崩壊の過程で環境が破壊され、失業や貧困が増え、医療や教育を受ける機会が不足します。労働者階級を始めとする心ある

人々が責任をもってすべきことは、それらを防ぐことによって、多くの人間が傷つけられたり、これまで積み上げられてきた優れた人間の遺産やかけがえのない自然が失われたりしないようにすることです。私たちの責任は、社会の崩壊を穩かに遂行させ、人々を広く啓発し、分別ある社会の幕開けを後押しすることです。

7. これまでに少なくとも二つの大国で、所有者階級と労働者階級の社会の代わりに抑圧も搾取もない社会をつくろうとする大きな試みがありました。どちらの試みも完全には成功しませんでした。ソ連は国民の大部分により良い住まい、交通手段、教育を供給することによって、ある程度の成功を収めました。中国は自然災害による被害を抑え、飢饉をなくしました。両国とも完全雇用を実現しました。

しかし結局はどちらの国も指導部は、様々な名目と口実のもとに、所有者階級が労働者階級を搾取する制度を再び導入しました。この両国は所有者階級と労働者階級による社会に後退し、世界のほかの国々と同じ状況に陥り、社会の崩壊を招いたのです。

8. 私たちの知るかぎり、ソ連と中国において階級のない社会を実現する試みが放棄されたのは、新しい社会での試みによって新たなパターンが登場したからではありません。かつて資本主義社会の中で登場したパターンが階級のない社会を実現する試みの中に引き継がれていたためです。指導者たちは旧社会での傷ついた経験から、もしくはそうした傷を抱え込んでいた先人たちから、そうしたパターンをすでに身につけていました。

9. そうしたパターンは間違いなく階級のない社会をつくろうとするあらゆる試みを妨げる形で登場し、存続するでしょう。しかし、ディスチャージと再評価がそうしたパターンを取り除き、なくすことができます。階級のない社会の建設に携わる指導部がディスチャージと再評価を使えるようになれば、そうした社会の建設の実現は可能でしょう。そうした指導部は当然、これまで何がうまくいったかがうまくなかったかについての知識が十分にあるでしょう。当然、社会が発展するなかで、一般庶民から優れた意見を得ることのできる可能性をわかっているでしょう。当然、あらゆる情勢をありのままに伝えることの必要性を学んでいるでしょう。なおかつ、道具としての再評価カウンセリング（名称は何であれ）を理解し、公けに使っていくでしょう。こうした状況のもとであれば、階級のない新たな社会はすばらしく現実的な過程をたどって実現されるでしょう。

10. 階級のない社会をつくろうとするにはRCの考え方が必要となるでしょう。

私たちは無力感のパターンをディスチャージするテクニックを開発しようとしています。こうしたテクニックを使えば、人々は社会に対してすべての責任を負える能力があることを認識でき、決して「管理」されることはないでしょう。私たちは、いかにすれば人々にこの崩れつつある社会の現実を目を向けさせ、それが自分たちにたいへんな苦しみを与えていることに気づかせることができるかを学んでいます。いかにすればいまだどんな生活を送り、どんな願望を持っているかを人々からうまく聞き出し、それによって人々がこれまで考えようとしなかったことも考えられるようになるかについて学んでいます。

私たちはRCコミュニティをつくるうえでいくつかの事柄を学んできました。それらは階級のない社会の建設にも応用できるでしょう。私たちは人々の非理性的な争いを解決するカウンセリングの仕方について学んできました。それらは社会の変化を恐れる人々の頑なな気持ちを和らげるためにも使えるでしょう。

いかにすれば人間同士が傷つけ合うことなく富を生産し分配できるようになるか、いかにすれば足りるだけの新鮮な食べ物を生産し分配できるようになるか、そうしたことに人々は関心をもつようになるでしょう。必ずや人々は人口過剰の危機の回避に関心をもつようになるでしょう（生活が安定し、十分な情報が得られれば、人口は爆発するどころか減少することはすでに明らかです）。地球上のあらゆる生物の種を保護する方策を支持するでしょう（一方で、天然痘やマラリアのような人間の生存を脅かす危険な微生物は、注意深く制御された実験装置の中でだけ生存していきます）。

私たちが獲得したこのRCの考え方を十分に説明すれば、おびただしい数の人々がRCに意欲的に参加し、完全な再生を求め、世界と人生を思いきり楽しもうとするでしょう。

Discussion Towards a Classless Society

プレゼントタイム 1992年1月号、20 - 22 ページ及びA Better Worldより

Harvey Jackins

翻訳 高坂明雄

この文章の著作権はラショナルアイランド社にあります（翻訳 2006 年。原文 1992 年）。
この翻訳はあくまで草稿として扱ってください。